

## 清勇の

# 川天狗

平成八年六月五日号

赤淵川と沼川の合流点付近を「清勇<sup>せいゆう</sup>」と言います。

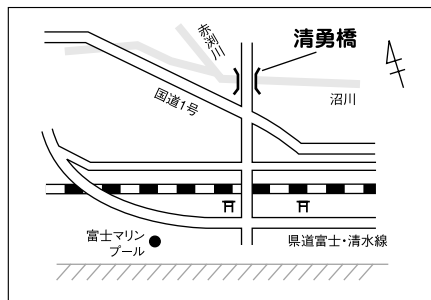
昔、このあたりは、うっそうとしたところだったので、きつねやかっぱ、天狗<sup>てんぐ</sup>などに化かされたという話が、たくさん残っています。今回は、清勇にあらわれた川天狗のお話を紹介します。

ある夏の、今にも雨が落ちてきそうな暗い晩のことです。虎さんは、清勇まで夜釣りにやって来ました。

「きょうは、よく釣れたな」といっばいになったびくを下げて、虎さんが帰り支度をしていると、後ろから「おい、魚をくれ」という声がありました。振り返ってみると、すぐ後ろに恐ろしい顔の川天狗が立っていたのです。

「うわあ」。びっくりした虎さんは、声にならない叫び声を上げ、びくを抱えて一目散に逃げ出しました。

すると、向こうから、ほおかぶりをした隣のお金さんが歩いてくるではありませんか。「どうした虎さん、そんなに息を切らして」「で、出たんだよ、川天狗が。それがなあ、物すご



いんだ」「ほう、そいつはこんな顔だったかい」と言いながら、金さんはほおかぶりを取りました。何と、その顔は、あの恐ろしい川天狗の顔だったのです。虎さんは「うーん」と



▶ 「清勇」は赤湊川と沼川の合流点付近の地域

気を失ってその場へ倒れてしまいました。虎さんの帰りが遅いので近所の人たちが捜しにやってくると、土手の上で気を失っている虎さんを見つけました。虎さんは、大事そうにびくを抱えていましたが、その中は空っぽだったということです。

### 佐藤錦之助さん（中央町）

清勇は、うっそうとしていたけど、川沿いの土手が小高くなっているから、周りがよく見渡せるんだよ。毘沙門さんの祭りのときなんかは、だるまを買って歩いている人の姿を見ることができたんだ。

昔、このあたりは水がきれいだった。ふんどし一丁でよく水遊びしたものだよ。魚もたくさんとれたし、投網している人もいたっけ。でも、今では、当時の面影はすっかりなくなっってしまったなあ…。